

氏名	今 井 正 信
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学位授与番号	乙 第 257 号
学位授与の日付	昭和42年12月31日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学位論文題目	ベクトル心電図に関する研究 (Frank法) 第1報 日本人健康青少年のT環について 第2報 日本人老壮年者のT環について
論文審査委員	教授 小坂 淳夫 教授 平 木 潔 教授 福 原 武

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

第一報では正常日本人青少年についてベクトル心電図 (Frank法) の T 環を分析した結果, QRS 環最大ベクトルの大きさは男子10歳代, 女子では20歳代が最大であり, T 環最大ベクトルの大きさについても同様であったが, T mag. / QRSmag. は女子の方が大であり, T 環の L/W 比は10歳代が最少であり, T 環 Polar vector は主として第2象限であり, その大きさは10歳代が最大であり, このT環は丸味を持った楕円形であり, 主として成長に伴う左室後壁のベクトルの関与によるものと考えられた。

第二報では老壮年者についてベクトル心電図 T 環を分析した結果, 男女共に年齢の変化にともない T 環は小さく, 丸くなり, 上方に移動する傾向にあり, 又, 血圧, 血清コレステロール値, 眼底所見の変動と T 環形態は相関をあまり認めず, 主に, 年齢の変動が著明であり, 特に, 40歳代で大きく丸味をおびた T 環を認めた。

(昭和42年10月 岡山医学会雑誌 第79巻, 9.10号掲載予定)

論文審査の結果の要旨

本研究はベクトル心電図につき、従来日本人の健常者の Frank 法によるT環の測定基準値が確立していない点に注目して、健康青少年、老壮年につきそれぞれ研究を行ない、正常範囲を確立すると共に、年齢の推移（加齢）に伴う諸変化を明らかにした価値ある業績である。

よって本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。